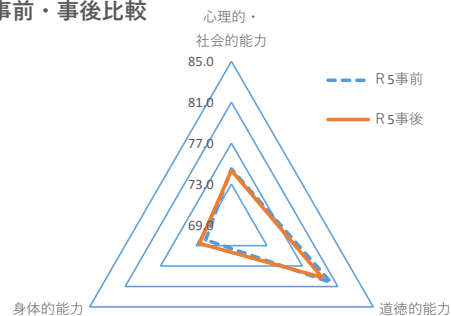


令和6年度 小学校セカンドスクール 事業評価 結果

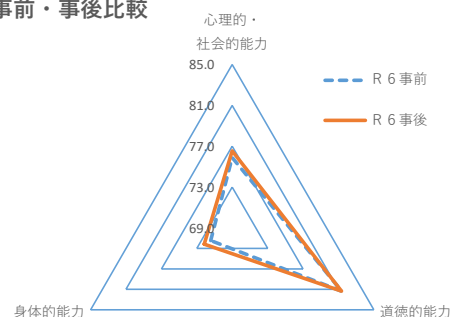
※11/10現在、12校中9校提出済

		「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力	調査児童数(人)
R 6 事前	得点	128.5	63.8	39.1	25.7	680
	割合(%)	76.5	75.9	81.4	71.4	
R 6 事後	得点	129.3	64.3	39.0	26.0	672
	割合(%)	77.0	76.6	81.3	72.2	
R 5 事前	得点	127.0	62.6	38.5	25.9	566
	割合(%)	75.6	74.5	80.2	71.9	
R 5 事後	得点	126.6	62.4	38.0	26.1	647
	割合(%)	75.4	74.3	79.2	72.6	

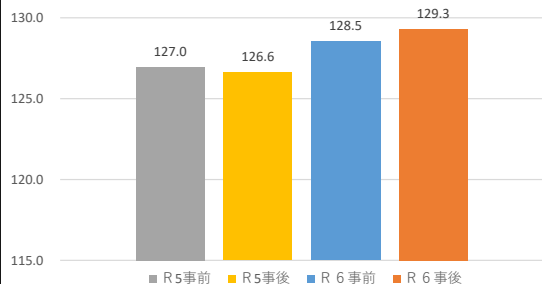
R 5 事前・事後比較



R 6 事前・事後比較



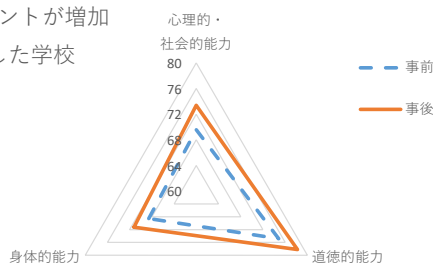
「生きる力」の変容



◎全体的な特徴や成果の分析

- ・令和5年度プレセカンド結果はポイントの減少があったが、令和6年度になり「生きる力」のポイントがわずかに上昇した。セカンドスクールになり、宿泊数が増加したことにより、体験や集団生活が充実したことが影響したと考えられる。これは昨年度と同様の結果であり、同じ傾向が見られる。
- ・3観点を比較すると、道徳的能力が高いことが分かるが、事前事後を比較するとほぼ変容は見られない。3つのうちでは、心理的・社会的能力が比較的伸びていることが分かり、自分たちで話し合いながら集団生活をする経験が充実していたことが分かる。

ポイントが増加した学校

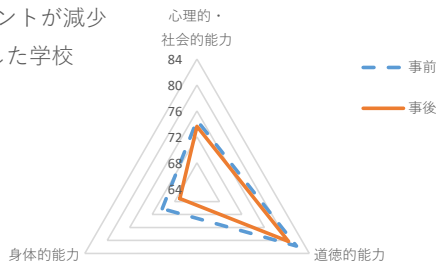


		「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
事前	得点	119.0	58.4	35.9	24.7
	割合(%)	70.9	69.6	74.8	68.6
事後	得点	124.8	61.6	37.5	25.6
	割合(%)	74.3	73.4	78.2	71.2

●ポイントが増加した学校の特徴や分析

- ・心理的・社会的能力において、普段とは違う環境下において、自分たちで役割を決め、仲間と生活する経験をできたことで数値が向上したと考える。
- ・道徳的能力において、宿の方や指導員との関わり、仲間との生活において、相手のことを考えて生活する必要感をもてたことで数値が向上したと考える。
- ・身体的能力において、毎日規則正しく生活や食事が数値の向上につながったと考える。

ポイントが減少した学校



		「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
事前	得点	127.1	62.6	39.2	25.3
	割合(%)	75.7	74.5	81.7	70.2
事後	得点	124.5	61.8	38.5	24.1
	割合(%)	74.1	73.6	80.3	67.1

●ポイントが減少した学校の特徴や分析

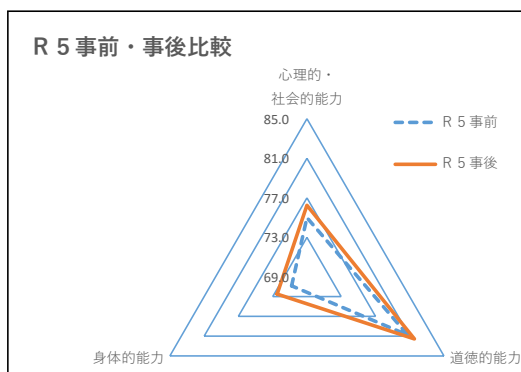
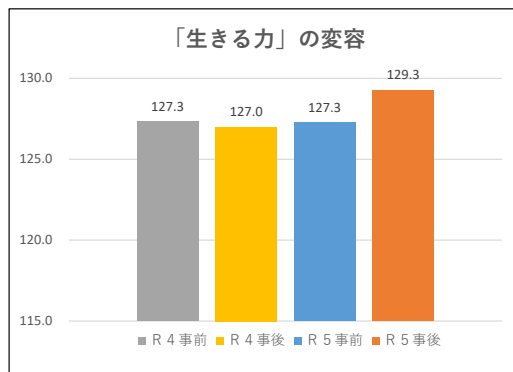
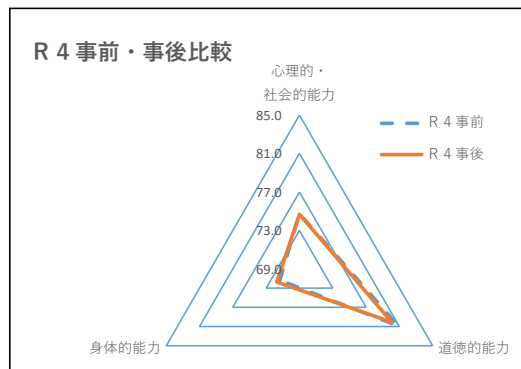
- ・5泊6日という時間の中で様々な体験をしたことで、自分を見つめ直す機会が多くあり、自己を客観的に見られるようになった結果だと考える。
- ・各項目を見ると「花や風景などの美しいものに感動できる」などは、平均ポイントが向上した。地形が一望できる場所を訪れなど、ゆとりある日程を組んだことで宿舍周辺の自然に触れる時間が確保できたりしたことで、向上したと考えられる。

◆次年度への引継ぎや改善点等

- ・来年度は、より一層の充実を図るため、行程を見直すことも1つだと考えられる。3観点では一番低いポイントであることや「からだを動かしても、疲れにくい」などの項目が低下したことから、登山などアクティビティの充実を検討する。
- ・ポイントが増加した学校のねらいや行程を分析すると、宿泊体験中の児童の主体性を重視して、毎日の振り返りを翌日に実践していることが分かる。好事例として、市内各校の実態に応じた活用を促していく。

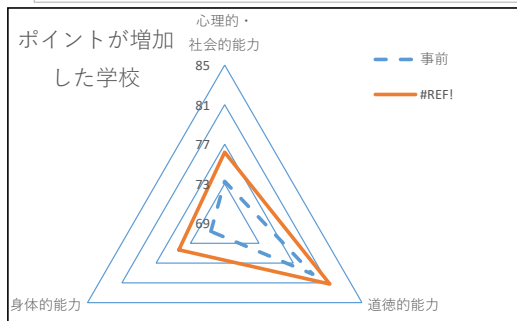
令和5年度 小学校セカンドスクール 事業評価 結果

		「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
R 5 事前	得点	127.3	63.0	38.8	25.5
	割合(%)	75.7	75.0	80.8	70.8
R 5 事後	得点	129.3	64.0	39.1	26.1
	割合(%)	76.9	76.2	81.5	72.5
R 4 事前	得点	127.3	62.8	38.8	25.7
	割合(%)	75.8	74.7	80.9	71.4
R 4 事後	得点	127.0	62.7	38.4	25.8
	割合(%)	75.6	74.7	80.1	71.7



◎全体的な特徴や成果の分析

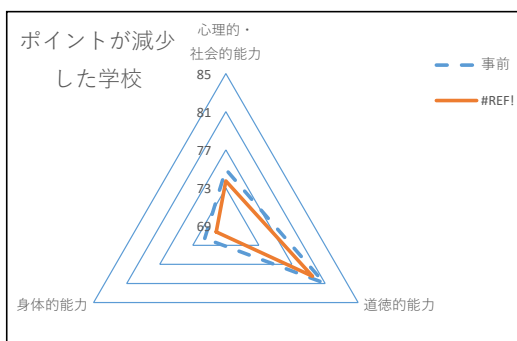
- ・令和4年度プレセカンド結果では「生きる力」にほぼ変容が見られたなかったが、令和5年度になり「生きる力」が上昇した。セカンドスクールになり、日数が伸びたことで、自然体験、探究学習などの学びや集団生活での人間関係の深まりを経験したことが影響したと考えられる。
- ・3観点を比較した際に令和4年度、令和5年度ともに道徳的能力のポイントが高いことが分かり、集団生活では「自己規制」「思いやり」が必要となる機会が多く、自己の成長につながったと考えられる。
- ・3観点の中では身体能力のポイントが事前事後共に低いが、伸びとしては一番大きい。規則正しい生活習慣や野外での活動を繰り返



		「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
事前	得点	125.0	61.5	38.0	25.4
	割合(%)	74.4	73.3	79.3	70.6
事後	得点	129.8	64.0	39.0	26.8
	割合(%)	77.2	76.2	81.3	74.3

●ポイントが増加した学校の特徴や分析

- ・3項目すべての数値が向上した。特に心理的・社会的能力が向上した。
- ・向上した理由としては、長期宿泊体験を経験することで、友達との協力、集団生活での道徳的規範、多くの人の支えに気づき、感謝や達成感を感じたことで、自己の変容や成長を感じる結果となったと考えられる。
- ・身体能力は刈り体験を充実させたこと、心理的・社会的能力は話し合いや試行錯誤の時間を十分確保したことが、変容につながったと考える。



		「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
事前	得点	127.6	63.0	38.8	25.8
	割合(%)	75.9	75.0	80.9	71.6
事後	得点	125.4	61.9	38.2	25.3
	割合(%)	74.6	73.7	79.5	70.2

●ポイントが減少した学校の特徴や分析

- ・インフルエンザ等により参加者や行程日数が減ったことにより、計画通りの内容を行うことができなかったことが減少に影響したと考えられる。現状の日数を確保することが必要だと考えられる。
- ・探究グループや宿ごとグループ、学年、学級と様々な関わり方を行った

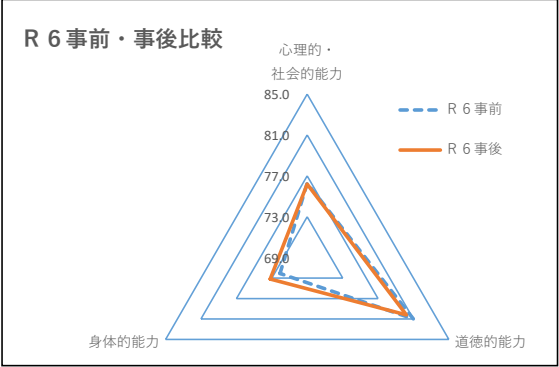
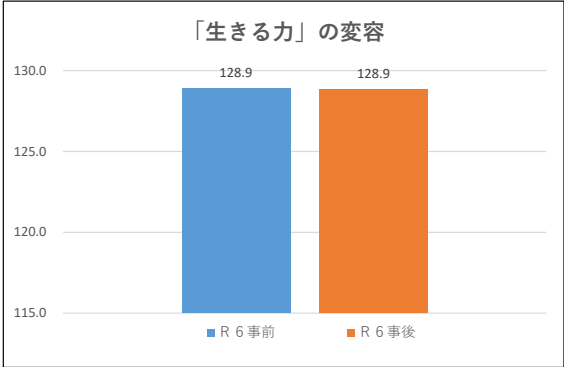
◆次年度への引継ぎや改善点等

- ・全体を通して、時間に余裕をもった行程を設定したことで、児童が課題をじっくり深めたり話し合ったりする場面を多く設定することができる。そのため、プログラムの削減も検討するとよい。
- ・夜の語らいの会などの時間を設けることで、児童同士や宿の方と普段話さないような話をすることができ、より深いかかわりの機会となる。
- ・「〇〇〇〇」という大きなテーマを設定し、繰り返し事前に指導したことにより、児童が目的意識をもって過ごすことができた。

令和6年度 小学校プレセカンドスクール 事業評価 結果

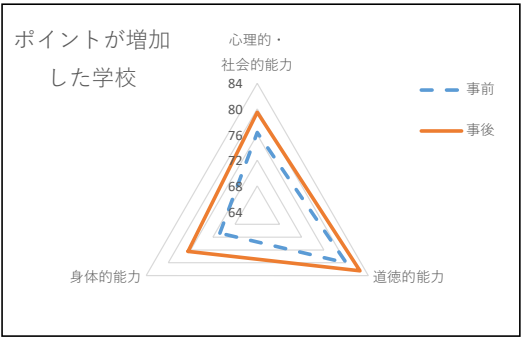
		「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力	調査児童数(人)
R 6 事前	得点	128.9	64.1	38.9	25.9	500
	割合 (%)	76.7	76.3	81.0	72.1	
R 6 事後	得点	128.9	64.0	38.5	26.3	479
	割合 (%)	76.7	76.2	80.2	73.2	

※11月10日現在、12校中6校提出済



◎全体的な特徴や成果の分析

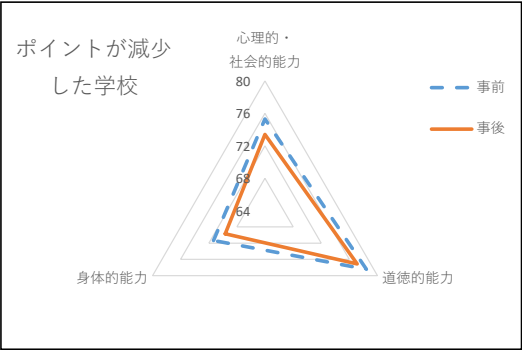
- ・令和6年度プレセカンド結果は3観点を合計した「生きる力」にはほぼ変容が見られなかった。令和5年度と同様の傾向である。
- ・各校の実態を分析すると、向上した学校と減少した学校に二分されていた。向上した学校は様々な経験を通して自信をつけ、自己肯定感が高まったといえる。減少した学校は天候等で実施できなかったプログラムがあったことが原因だと考えられるが、大きな変化はなく、実際の生活では集団を意識した行動へと変容したことが分かった。
- ・観点別には「道徳的能力」が事前事後ともに高い。理由としては、子どもたちはプレセカンドにおいて集団生活の在り方や、自己規制の大切さをファーストスクールと同じように実感したからだと考えられる。



		「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
事前	得点	128.0	64.1	38.4	25.5
	割合 (%)	76.2	76.3	80.0	70.7
事後	得点	133.9	66.8	39.6	27.5
	割合 (%)	79.7	79.5	82.5	76.5

●ポイントが増加した学校の特徴や分析

- ・事前学習の中で武蔵野市とは違う自然環境に興味、関心をもっている児童が多かった。その中で事後アンケートでは、生きる力の項目が6ポイント向上した。武蔵野市にはない自然を目にし、驚きと興味をもったことで向上したと考える。
- ・子どもたちも実施前に比べて学校生活で自信をもって過ごしており、積極的に友達とコミュニケーションを取りながら生活をしている。



		「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
事前	得点	126.6	63.3	37.6	25.7
	割合 (%)	75.3	75.3	78.4	71.3
事後	得点	123.8	61.7	37.0	25.1
	割合 (%)	73.7	73.4	77.1	69.7

●ポイントが減少した学校の特徴や分析

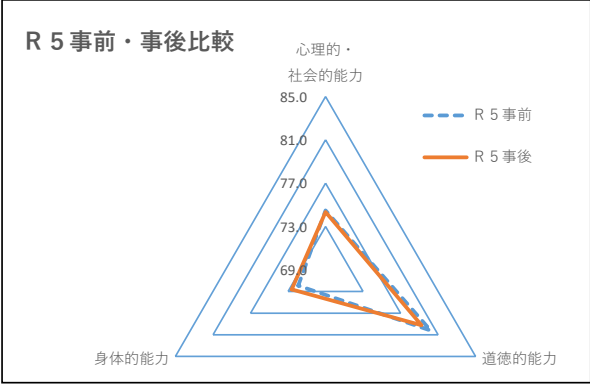
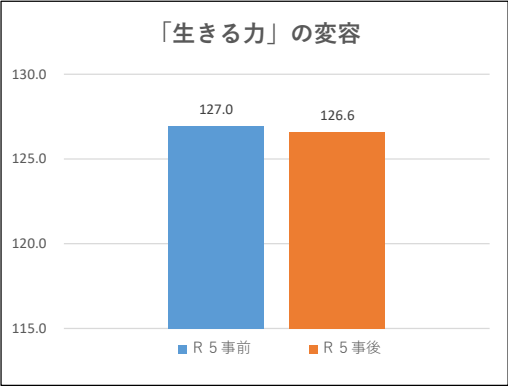
- ・今年度は、熊が出現してしまったり、見学が荒天のため中止になってしまったりとメインともいえる活動が2点実施変更や修正があったため。
- ・一方で、実際の生活の様子では、思いやりある温かい言葉かけが増えたり、友達との長期的な集団生活で「折り合いを付ける」という動きが多くの児童から見られるようになったこともあり、道徳的能力や、心理的・社会的能力について一定水準となっていることが分かる。

◆次年度への引継ぎや改善点等

- ・集団生活を送ることが初めての経験であるため、計画通りに活動を行うことができるように、複数の案を用意したり余裕のある計画を設定することが求められる。時間的なゆとりをもたせることで、児童の自信を向上させることにつながると考えられる。
- ・本市の傾向として、身体的能力の数値が3観点を一番低いことがあげられる。一方で増加した学校では、「早寝早起きである」や「体を動かしても疲れにくい」などの項目がある身体的能力のポイントの伸びが大きい傾向があることから、この学校のように児童に活動を委ねるなどの工夫を行い、日常的な行動力の向上につなげていきたい。

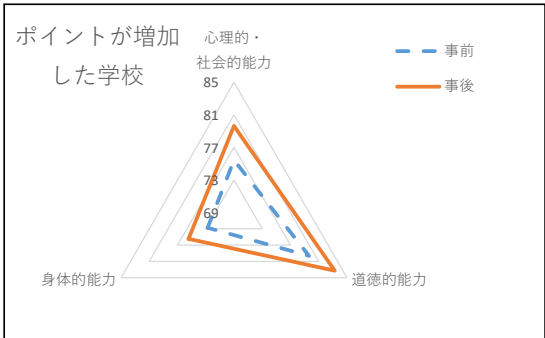
令和5年度 小学校プレセカンドスクール 事業評価 結果

		「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
R 5 事前	得点	127.0	62.6	38.5	25.9
	割合 (%)	75.6	74.5	80.2	71.9
R 5 事後	得点	126.6	62.4	38.0	26.1
	割合 (%)	75.4	74.3	79.2	72.6



◎全体的な特徴や成果の分析

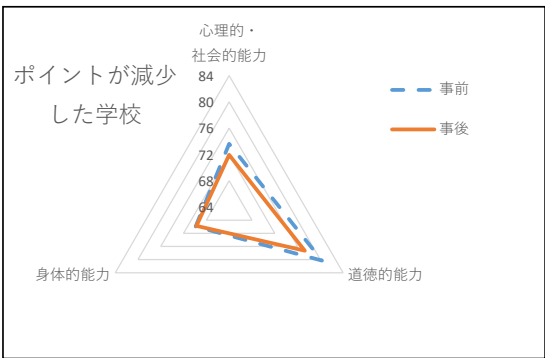
- ・令和5年度プレセカンド結果は3観点を合計した「生きる力」にはほぼ変容が見られなかった。
- ・各校の実態を分析すると、向上した学校と減少した学校に二分されていた。向上した学校は様々な経験を通して自信をつけ、自己肯定感が高まったといえる。減少した学校は、自分自身を客観的に見つめる機会ととらえた児童が多かったためであると考えられる。
- ・観点別には「道徳的能力」が事前事後ともに高い。理由としては、ファーストスクールでの教師の働きかけはプレセカンドの宿舎の生活にも共通しており、子どもたちはプレセカンドにおいて集団生活の在り方や、自己規制の大切さをファーストスクールと同じように実感したからだと考えられる。



		「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
事前	得点	127.8	63.4	38.2	26.2
	割合 (%)	76.1	75.4	79.6	72.7
事後	得点	134.0	66.9	40.0	27.2
	割合 (%)	79.8	79.6	83.3	75.4

●ポイントが増加した学校の特徴や分析

- ・それぞれの項目において、大きな変容が見られた。
- ・身体的能力については、トレッキングで登り切った経験から自信が高まったと考えられる。
- ・心理的・社会的能力については、相互理解が進み、協調性や思いやりが育まれたからであろう。声を掛け合って自立して生活しようとする態度も多く見られ、できることを増やし、自信を付けることができた。



		「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
事前	得点	125.5	61.8	38.5	25.2
	割合 (%)	74.7	73.6	80.3	69.9
事後	得点	122.6	60.4	37.1	25.1
	割合 (%)	73.0	71.9	77.3	69.7

●ポイントが減少した学校の特徴や分析

- ・全体的に、実施前から実施後に数値が減少する結果になった。初めての宿泊行事であり、思うようにいかない状況から、自分自身に対する客観的な理解が深まったと考えられる。
- ・児童の振り返りから「以前よりも友達と協力できるようになった」、「自分のことを自分できた」という声もあり、自分自身の成長を実感している様子が

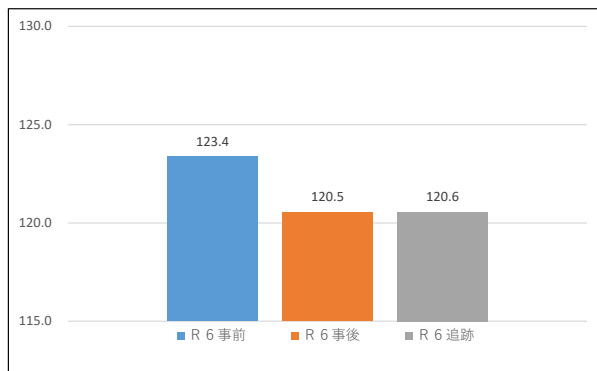
◆次年度への引継ぎや改善点等

- ・集団生活のマナーやルールについて経験を通して学ぶことはセカンドスクールにつながるが、個人差が大きいため、事前に自宅での実践など保護者と連携するとよい。
- ・児童の体力面の実態に応じてトレッキングコースを短くしたり内容を変更したりすることで、児童にとって充実した生活を送ることができる。
- ・2泊3日では、課題解決に至らない学習内容があったので課題設定には留意が必要である。
- ・宿泊先によっては、宿の方との関わりが少ない場所もあったため、セカンドスクールを意識した集団宿泊活動につながりずらかったので検討したい。

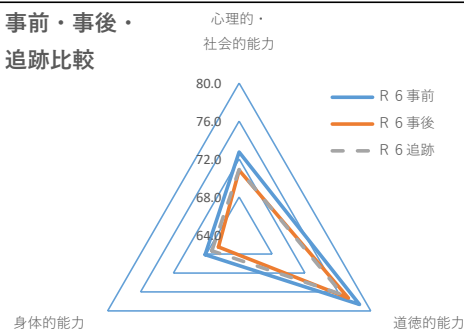
令和6年度 中学校セカンドスクール 事業評価 結果

		「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力	調査児童数(人)
R 6 事前	得点	123.4	61.1	37.7	24.5	205
	割合(%)	73.4	72.7	78.6	68.1	
R 6 事後	得点	120.5	59.5	37.1	23.9	235
	割合(%)	71.7	70.8	77.3	66.5	
R 6 追跡	得点	120.6	59.6	36.8	24.2	230
	割合(%)	71.8	70.9	76.6	67.3	

※11月10日現在、6校中2校
提出済



R 6 事前・事後・
追跡比較



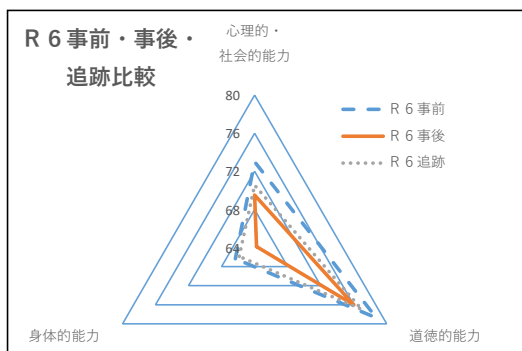
◎全体的な特徴や成果の分析

- ・「生きる力」のポイントは、事前調査から事後調査にかけて減少傾向が見られたこと、また継続調査においては変化がないことから、実施中や学校に戻った後の継続した自己肯定感を実感する指導が求められる。
- ・プレセカンドやセカンドと比較すると、総じて5ポイントから8ポイント程度が低いことから、自分自身を客観的に見つめ、厳しく評価している傾向が分かる。
- ・昨年度の結果と比較すると、傾向に大きな違いがあるため、調査内容や方法について検討する必要があると考えられる。



	「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
事前				
事後				
追跡				

●ポイントが増加した学校の特徴や分析



	「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
事前	73.2	73.0	78.8	66.3
事後	70.1	69.5	76.0	63.8
追跡	71.4	70.5	77.0	65.9

●ポイントが減少した学校の特徴や分析

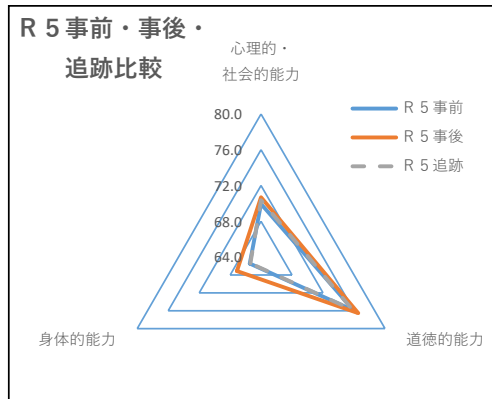
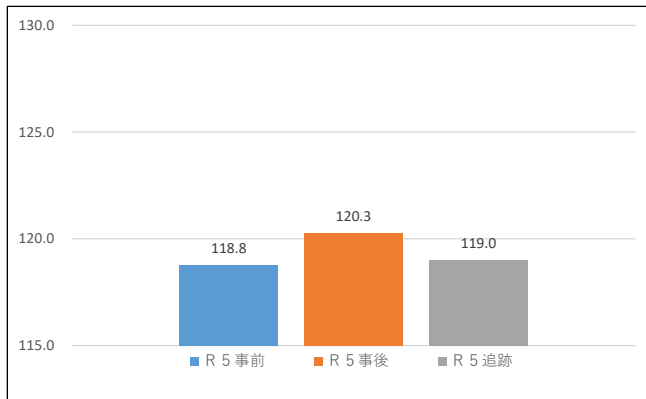
- ・学習においては、現地と吉祥寺の魅力の比較して、両方の街を発展させる道を考えることを課題とし、今年度はクイズラリーを導入した。
- ・事後学習では、両方の街を発展させる道考えたものを展示した。課題について、一人一人に考えさせることができた。
- ・班行動を連日実施したことで、班で協力する意識、苦にせず体を動かす力が高まったので、今後も続けていきたい。

◆次年度への引継ぎや改善点等

- ・生徒一人一人が自分自身を見つめる機会として、セカンドスクールが位置付いているので、今後は感じたことを活動中の取組にいかしたり、ファーストスクールの生活と意識的につなげたりして、この経験が自信につながるように意図的に取り組んでいくと良い。
- ・「生きる力」の調査方法自体を見直して、次年度の引継ぎや改善点を検討していくことが必要である。

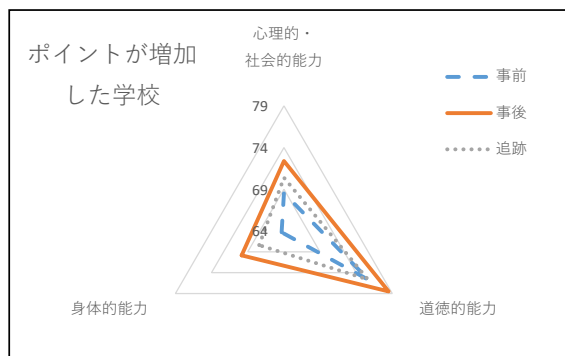
令和5年度 中学校セカンドスクール 事業評価 結果

		「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
R 5 事前	得点	118.8	58.8	36.5	23.6
	割合 (%)	70.7	69.9	76.0	65.5
R 5 事後	得点	120.3	59.4	36.7	24.2
	割合 (%)	71.6	70.7	76.5	67.1
R 5 追跡	得点	119.0	59.1	36.4	23.5
	割合 (%)	70.8	70.4	75.8	65.4



◎全体的な特徴や成果の分析

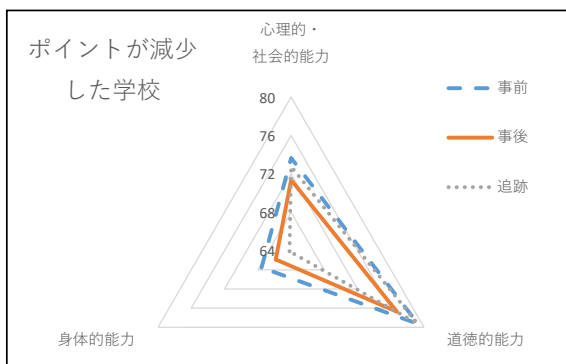
- ・「生きる力」のポイントは、事前調査から事後調査にかけて向上が見られる一方で追跡調査において、ポイントが戻ることが分かる。ファーストスクールで継続した自己肯定感を実感する指導が求められる。
- ・ブレセカンドや小セカンドと比較すると、総じてポイントが低いことは、自分自身を客観的に見つめ、厳しく評価している傾向が分かる。
- ・「身体的能力」において、事後調査の伸び率が高く、カヌーやトレッキングなどの自然体験学習や規則正しい生活習慣は、生徒に好影響を与えたことが分かる。



	「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
事前	69.7	68.5	75.8	64.3
事後	73.6	72.4	78.5	69.8
追跡	71.2	70.4	75.6	67.4

●ポイントが増加した学校の特徴や分析

- ・事前から事後では、すべての項目において数値が上がった。今年度の農村生活体験が生徒たちに与えた影響は大きかったのではないかと考えられる。
- ・自然との直接体験やインストラクターの説明が、子どもの意欲を高め新たな視点に気付く思考を広げることにつながった。



	「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
事前	73.9	73.7	79.3	67.5
事後	71.7	71.4	76.7	65.8
追跡	72.8	72.8	79.2	64.2

●ポイントが減少した学校の特徴や分析

- ・宿舎での生活で各自が責任をもって係の仕事を行い、他者を思いやりながら共同生活ができた。
- ・生徒の「生きる力」の変容が事前から事後にかけて低下したが、各質問についての平均に注目すると、3（あまりあてはまらない）を下回るものはなく、生徒の「生きる力」や自己肯定感について、良好な結果だと考えられる。

◆次年度への引継ぎや改善点等

- ・セカンドスクールで探究する課題を中学校生活を見通した総合的な学習の時間や武蔵野市民科等において、計画的継続的に取り上げ探究サイクルを積み上げていく。
- ・次年度教員と連携をとって計画を作成することで、スムーズな行程、事前事後学習との関連、学年全体の共有などの充実を図ることにつながる。